



F-SOAIP（生活支援記録法）とは、多職種協働によるマイクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、生活モデルの視点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を「F（焦点）」「S（主観的情報・利用者の言葉等）」「O（客観的情報）」「A（アセスメント・考えたこと）」「I（介入・対応したこと）」「P（今後の予定）」の項目で可視化し、PDC Aサイクルに多面的効果を生むリフレクティブな経過記録の方法。

さまざまな分野で実践が広がっているF-SOAIP。今回は災害時支援や地域包括支援センターの主任介護支援専門員、そして精神科医療から刑務所での司法福祉へ転職後もF-SOAIPによる記録が支援の質の維持・向上に効果を上げている実践を紹介してもらいます。

F-SOAIPでキャリアを紡ぐ

高齢者から障害児者、さらに避難行動要支援者支援へ

一般社団法人 埼玉県ケアマネジャー協会 地域支援部長 宮崎和代

災害時支援で介護支援専門員や 相談支援専門員が担うこと

現在、障害児者を支援する立場にあることから、今年度も何名かの個別避難計画を作成しました。介護支援専門員と相談支援専門員には同じ役割があり、利用者及び家族の意向や日常生活の状態を把握する立場にあることから、災害時には、①支援者、②避難経路や方法、③服薬、医療的ケアやデバイス等の医療情報、④避難生活を想定した食事、排せつ、環境等について、⑤震災時と水害時それぞれの避難の意向等、詳細な情報をもとに具体的な支援計画を利用者等と作成します。つまり、行政が知りたい情報と要支援者が伝えたい情報をつなぎ合わせる役割があります。

また、支援者（家族）が抱いていた避難に対するさまざまな災害時の不安を第三者に話せる機会になります。

個別避難計画書に F-SOAIPがもたらす効果

図 自閉症男性の場合

個別避難計画書（従来の記載例）
<input type="checkbox"/> 食事：自立摂取可能、アレルギー無し
<input type="checkbox"/> 排泄：自立 【特記事項】・水害時は在宅避難
個別避難計画書（F-SOAIPによる記載例）
<input type="checkbox"/> 食事：自立摂取可能 【特記事項】 S：音に敏感なため、子どもの泣き声や大人の大きな声が響くところでは落ち着かないため食事が摂れない。
<input type="checkbox"/> 排泄：自立 【特記事項】 O：音に敏感なためイヤーマフ使用、高齢者には拒否無し。 自分と家族の名前は読み書きができる。 A：一人で列に並んで待つことができない。 初めての場所には不安があるため家族もしくは男性の付き添いが必要。 P：水害時在宅避難、マンション倒壊の危険がある場合は避難。 近くに住む介護が必要な祖父母と一緒に避難。

上図は、個別避難計画書に、F-SOAIPを応用した記載例です。「特記事項」欄は、スペースや文字数に制限があるため、F-SOAIPの項目から優先順位の高い順に記入します。

主観的情報（利用者の言葉）（S）と客観的情報（O）をもとに、記録者（ケアマネジャーや相談支援専門員）は自らのフィルターを通じて考え（A）、導き出した個別性の高い計画（P）は、民生委員（児童委員）など関係者が初めて見ても分かりやすく簡潔にまとまります。計画作成の過程で助言したこと（I）

は、策を講じるだけでなく、より現実的な防災への取り組み、「自助」の意識づけが期待され、結果として利用者の発

プロフィール

宮崎 和代
一般社団法人埼玉県ケアマネジャー協会 地域支援部長



都内の相談支援事業所に勤務しながら、講師、福祉サービス第三者評価、シニア・高齢者や慢性的に片づけられない方へ片づけ整理収納サポートを行っている。